

第5回富山市都市マスタープラン検討委員会 議事

日 時 : 令和7年8月19日(火) 午前10時～午前11時30分

場 所 : 富山県民会館3階 302号室

出席者 : <委員>

久保田委員長、姥浦委員、本田委員、中村委員、

星川委員、布目委員、田中委員、北岡委員、

中谷委員(代理・事業対策官 二川氏)、川上委員

<事務局>

活力都市創造部長、活力都市創造部次長、

活力都市創造部次長(技術)、都市計画課長、その他4名

1 開会

2 議事

(1) 次期都市マスタープラン(素案)について

委員長 : 検討委員会資料について意見、質問をいただきたい。

委員 : 各地域別構想と市民の生活像の関係について明示されていないが、あえて明示していないのか。

事務局 : 本編(素案)の44ページに各拠点の拠点像、45ページで地域生活拠点の拠点ごとの分類をしている。図面で見づらいところがあるが、拠点の分類によって色分けをしている。市民の生活像の中にどのエリアかという記載はないが、想定されるエリアは当然ある。エリアを限定せずに設定するような形を取りたいと思っており、具体的な地域は言及していない。

委員 : 概要版では「豊かな」という言葉を多用しており、その中でも「豊かな営農環境」は言葉の使い方として違和感がある。「良好な営農環境」などの表現がしっくりくる。

事務局 : 「豊かな」という表現については、ご指摘のとおり、再度検討させていただきます。

委員 : 本編(素案)にて「既存集落の利活用」という表現があるが、実態は空き家・空き地の活用とみられる。「既存集落の利活用」と「空き地・空き家の活用」の使い分けや整合性について伺いたい。

事務局 : 市街化区域のエリア、都市計画区域外のエリアによって、まちの形成に特性がある。どちらかというと、市街化区域のエリアについては、エリア内を活用してもらいたいことから「空き地・空き家の活用」と表現している。一方で、都市計画区域外のエリアでは既存

集落全体を利活用する旨を強く表現したいと考え、語彙を使い分けたが、適切な表現方法を再度検討する。

委員： 検討委員会資料（概要版）の3ページについて、婦中地域は副次都市拠点に含まれないのか。副次都市拠点に関する説明では、婦中地域が含まれるような書きぶりであるが、婦中地域の位置づけを伺いたい。

2点目は、概要版の6ページについて、空き家対策の取組内容が記載されているが、税制優遇などの具体的な方策があれば記載してはどうか。

3点目は、今後20年スパンで実用されるかもしれない、自動運転に関して全く触れられていない。都市構造については適宜見直しがされると思われるが、自動運転は大きな要因であるため、少し触れてはいかがか。

4点目は、まちの目標で「④持続可能で災害に強い、安全・安心のまち」を書いているものの、資料内で災害に関する記載がない。

最後にコメントではあるが、昨年度の市民ワークショップでは、市民が期待することと行政の想いにズレがあるとの意見もあったため、なるべく齟齬が無いように調整してほしい。

事務局： 1点目について、副次都市拠点は都心に近い特性を活かして、民間活力も活用しながら、単純に買い物や生活のための施設に限らず、大学やオフィスなどの機能の集積を期待している。婦中地域については、商業施設を中心とし、医療、買い物、金融の3つの機能が集積している地域である。これらの機能を維持しなければ、婦中地域の他にも山田地域や八尾地域などの周辺住民の生活へ影響するため、生活拠点に設定している。

2点目について、都市マスは基本の方針を示す計画であり、具体的な取組を記載することは難しい。空き家に関する計画や補助制度は居住対策課で具体的な取組を実施しているため、別途都市マスとの連携を検討する。

3点目について、自動運転は今後出てくる可能性は十分にあると考えられる。ただ、今回の都市マスの中では既存の公共交通を活性化し、沿線をどのようにするかという点を主軸としている。自動運転の取組が具体的になれば、他の計画での記載なども検討したい。

4点目について、災害リスクを地域別構想の中でまとめていた部分があったが、資料のボリュームの関係で当該部分が抜けている。データ集としては、立地適正化計画の防災指針に記載されている災害リスクを含めてまとめたいと考えている。

5点目について、今後、地域の方から意見を聞く場として、地域別説明会の開催を予定している。また、素案から案が変わった際には、パブリックコメントを実施する予定であるため、市民が共感できるような計画にまとめたい。

委員長 : 空き家に対する税制優遇について、具体的な記述はないのかということに関連して、本編(素案)の34ページ以降に目指すべき都市構造である「お団子と串の都市構造」について、コンパクトなまちづくりとリノベーションの推進が示されている。コンパクトなまちづくりは、丁寧に説明されている一方、リノベーションの推進はあまり説明されておらず、バランスが悪いと感じた。リノベーションのまちづくりを具体的にどう進めるか、ある程度の方針を充実させる必要がある。

防災について、まちづくりの基本方針(4本柱)の文章中では、災害対策の記述はされているものの、まちづくりの推進方策の進め方で防災に関することが言及されていない。キーワードとして入っていた方がよい。

事務局 : ご意見を踏まえ、内容を精査したい。

委員 : 感想として、まちの生活像を具体的にイラストで示すのは、専門家だけでなく、市民にもイメージを持ってもらう上で非常に良い取組だと思う。その上で、富山中央地域に都心コアエリアが新設され、賑わいの創出やウォークアブルなまちづくりを推進する方向性は良いが、主に商業や居住環境に重点が置かれている印象を受ける。商業系土地利用方針には、都心コアで本社や支店機能をもつ業務施設を誘致し、地域経済を高める趣旨が記載されていることから、女性や若者が離れていく課題に対して、働きやすい場として業務機能を集積することについて追記してはどうか。

事務局 : ご意見を踏まえ、再度検討したい。

委員 : リノベーションに関連して、建て替えが進みにくい既成市街地は、前面道路が狭いことや1つあたりの区画が狭いという特性があることから、どうやってリノベーションしていくかの視点があってもよい。

事務局 : 既成市街地のリノベーションは、どういう風に改善していくか非常に重要な視点だと思っており、どんな形でできるのか、業者にヒアリングしながら検討している。

委員長 : 他にご意見いかがでしょうか。

委員 : A3の資料「第5回都市マスタープラン検討委員会資料」は、概要版のイメージか。また、まちやまちづくりという言葉が多く記載されているが、2ページの目標は、まちづくりの目標ではなく、まちの目標なのか。

事務局 : そうである。全体の課題や現状認識を把握した上で、どんなまちを作ろうかということを考え、まちの目標としてまとめている。

委員 : 地域生活拠点という言葉が表現として難しいが、地域拠点や生活拠点などの言葉の使い分けを市民に分かりやすく解説すべきである。また、前回資料で「公共交通の徒歩圏」という言葉が使われていたが、今回は見当たらない。

- 事務局 : 3ページに整理したが、「公共交通の徒歩圏」という言葉は「公共交通が便利な圏域」として表現を修正し、整理した。「公共交通の便利な圏域」は用途地域、居住誘導区域が含まれていることを表記している。「公共交通の利用志向圏域」は公共交通の利用実態がある範囲で別途示している。
- 委員 : まちづくりの理念について説明するページがほしい。4ページのイメージ図について、「公共交通沿線の生活像」と「公共交通の沿線以外の生活像」を示す意図はなにか。
- 事務局 : 住民とのワークショップを踏まえた時に、公共交通の沿線に住んでいない市民はどうすればよいのかという意見があり、公共交通の沿線以外であっても公共交通との関連性があることを示すことにより、都市マスが市全域の市民の生活を支えているんだということを見ていただければと思う。
- 委員 : だとすれば、そのイメージは重要である。地域別構想部分は特に市民の方に理解していただく観点からも、最終的には凡例や図は読みやすくなるのか。
- 事務局 : 全体のデザインを含めて、今後検討したい。
- 委員長 : 用語がわかりにくいという指摘に関連し、他自治体の都市マスでは用語集が含まれるものもみられる。追加するのは大変かもしれないが、情報の整理という観点から検討いただきたい。また、今回の資料でデータ集は含まれていないが、最終的に根拠となるようなデータを充実させてほしい。
- 事務局 : データ集については、市民にみていただけるようにわかりやすいデザインを検討したい。
- 委員長 : イメージ図について、公共交通沿線以外の生活像は拠点以外のエリアということか。
- 事務局 : 拠点に限らず、公共交通の徒歩圏の周りなどにも集落地域があるため、公共交通の沿線以外のエリアを示している。
- 委員長 : 本編にはそのようなエリアの説明ができていないように感じる。
- 事務局 : 本編の82、83ページで生活像を示しているのに加え、土地利用の方針の中でも集落地域について記載しており、混ぜた形で表現している。
- 委員長 : その部分もしっかり書いておく必要がある。お団子はしっかりと記述するのは当然としてそれ以外のところはどうなるのかは、多くの人が気になる部分だと思うので、しっかりと記載しておくとうい。
- 委員 : 近年の豪雨の影響で治水対策が叫ばれている。都市計画の中では防災と治水は別物とされているため、治水対策について加えるべきである。特に市民は治水に関して敏感であり、その対応策も含めていただきたい。
- 事務局 : 60ページに都市マネジメント推進の基本方針の中で、取組の1つに防災・減災まちづくりを示しているが治水については言及してい

ない。現在、国や県に照会をかけており、予定している事業の把握に努めている。それらも含めて加筆したい。

委員：内容は理解できるものの、地域住民はなんとなく物足りなさを感じるのではないかと。例えば、公共交通の活性化について、地域住民の具体的な悩みは、地域住民の足がなくなったときに具体的にどうなるのかという不安がある。また、鉄道事業者が定期券購入者以外の利用者をどうやって増やすのか工夫されているが、住民にとって具体的な取組が分からない。計画に示されていることは全部わかるが、具体的な取組が見えないことが消化不良であり、パブコメでも当然その指摘が出てくるのではないかと。

事務局：前提として、都市マス自体が都市づくりの大きな方針を示す曖昧さが残ってしまうことを理解していただきたい。また、都市計画以外の分野については、総合計画やその他の関連計画で具体的に積み重なっていくと考えられる。

その上で、例えば公共交通の活性化について、単純に利用者を増やすことは難しいので、どうやって利用してもらうのかを意識してまちづくりを考えなければならない。そのため、拠点に行く理由、目的地を作り、公共交通の周りに住む、使うことによって便利に暮らせるということを20年かけて実感できるようなまちづくりにしようと思ひ、都市マスの作成を進めている。

委員：今後、公共交通がなくなってしまうのではないかと不安があるのも事実である。計画内で「過度に自動車に頼らない生活」と示されているが、住民は理解しているものの、頼らざるを得ない実態もあることも認識しなければならない。

委員：全体の方向性に申し上げることはないが、1点目に、色付けされたお団子のポイントは、それぞれのお団子がいろいろな色を持っていることである。岩瀬、婦中、八尾、大沢野では同じような文書が書いてあるが、各団子の色は違うということをもっと市民の方が考えて、実現していくというところをもう少し記載いただければ良い。

2点目はまちづくりの基本方針において、公共交通の活性化、公共交通志向型居住の推進、中心市街地をはじめとした拠点の形成以外は都市マネジメントに含めるという変則的な方針である。富山らしくて良いと思うが、都市マネジメントの言葉の定義が広い印象を受ける。都市空間マネジメントや都市インフラマネジメントなど狭めた定義にしてはどうか。また、概要版の2ページの都市マネジメントの説明の中に、安全・安心や防災、災害などのキーワードが入っていると良い。

3点目はイラストについて、必ずしもこの場所だとわかる必要はないが、何となくここかなと分かる方が良い。現実離れたイラストだと、わからない話になってしまうので、現実と理想、具体的な場所とのバランスをとったイラストで描いていただければ良い。

最後に今後の課題だと思うが、中心部について収集された駐車場や空き家などの様々なデータが十分に活かしきれていない。都市マスだけで表現するのは難しいと思われるが、どう活かすか、別途考えていただけるとよい。

事務局：今回は都心コアを設定すること自体を大まかな方向性として都市マスで示すが、中心部をどうしていくかは今後も検討をしていきたいと考えている。来年、立地適正化計画の見直しを予定しており、立地適正化計画の見直しを含めて都心部をどうするかを考えたい。その他の意見は再度検討したい。

委員：自転車は重要な移動手段であり、富山県が観光の観点で富山湾岸サイクリングルートの活性化を図るほか、通勤通学として使うことが想定される。取組例として、公共交通の拠点に駐輪場を整備するだけでなく、走行空間の改善や市街地にレンタサイクルポートを設置するなど、今まで自転車にあまり触れていなかった富山市の都市マスにおいて新しい視点と考える。もし書けるのであれば、ぜひ書いていただきたい。

事務局：自転車についても、二次交通の1つとして、公共交通と関連性があると考えられる。公共交通が集積する場所での駐輪場整備はこの20年間取り組んでいるので、関連する取組は記述したい。富山県が取り組んでいるものや広域のサイクリングロードの話はどう取り扱うかは確認していないが、記述できるものは記述する。

委員長：自転車は重要な交通手段と思われる。今後、パーソナルモビリティが新たに出てくると想定されるものは、詳しく記述できない部分もあると思うが、キーワードだけでも記載してはどうか。

事務局：どのような交通手段が生まれてくるかは未知であるが、公共交通に代わるようなものがいきなり出てくるとは思えないので、公共交通軸は変えずに新モビリティをどう使うかをわかるように出来たらよいと思う。

委員：他の委員から意見が出ているが、イラストは市民にとってはわかりやすくイメージできると思われるが、市内のどのエリアなのかというイラストになればより良い。また、生活拠点と地域拠点の違いをイラストだけで認識でき、説明文でさらに意味が分かるようにできればよい。

委員長：イメージ図をどこまで具体的に表現するか。抽象性もある程度必要だと思われる。他の都市でも使えるような抽象的なイラストは少し寂しいので、富山市らしさが表現できればよい。

委員：レンタサイクルはインバウンドの方で使いたい人がいっぱいいる。

委員長：他の都市に行くとき自転車に乗る機会が増えてきて、レンタサイクルを借りて市内を回ることが可能な状況が整ってきている。来訪者の自転車ニーズはあると考えられ、レンタサイクルに関して具体的に考えるのは別の計画であるかもしれないが、ある程度都市マス

で自転車をどう位置付けるかを記述してよいと思う。

委員：容積率の変更や建ぺい率の変更、市街化区域編入などは次の段階として既に想定されているか。

事務局：建ぺい率と容積率の変更については、個別対応であるため適宜対応する方針である。市街化区域編入について、平成28年に呉羽地域と東富山地域で市街化区域に編入している。現在、富山市として要望しているところは速星駅周辺、水橋駅周辺であり、富山県と調整中である。

委員長：まちの目標で5つ挙げているが、前は4つであった。

事務局：前は「豊かな自然を守り育てる環境にやさしいまち」の中に、災害の話を含めていたが、災害については近年のトピックスとして重要な要素と考え、新たに項目を追加した。

委員長：前回の議論で、現状を見据えた上でのまちの目標を設定されたと思うが、機能的なことが強く書かれている。機能的なことも重要だが、ソフトな目標も書いてもよいと思う。試案に過ぎないが、「わくわくできるまち」や「若者が挑戦、支援できるまち」、「帰ってきたくなくなるようなまち」などの観点を含めてはどうか。

事務局：総合計画にてソフト的な要素を含めた目標を設定しており、都市計画に基づく都市マスは土地利用や都市施設の整備がメインの計画書ということで、あえてソフト的な大きな目標は記載していない。

委員長：48ページの数値目標は都市構造を実現するための数値目標であり、その都市構造は「コンパクトなまちづくり」と「リノベーションまちづくり」としている。しかし、数値目標の中身は「コンパクトなまちづくり」を達成するための数値目標になっており、「リノベーションまちづくり」に関する数値目標が見えづらい。「リノベーションまちづくり」に対する数値目標があったほうがよいのではないか。

事務局：建物単体のリノベーションに関する数値データの収集は難しく、正確なデータが集まらない可能性があるため、人口をベースにして、状況を把握できるように実施するつもりで目標値を設定した。モニタリング指標としてみることで資料があれば検討したいが、一旦このような意識で設定している。

委員：既成市街地の低未利用地は空き家の取り壊しや、空地になるなどイメージがわきやすい。一方、既成集落の低未利用地はイメージがわきにくい。集落の中の低未利用地がどこなのか、それらをどうするのかという具体的なイメージがわかりにくいと感じた。例えば、集落の宅地化された場所などの、単純な既成市街地からのキーワードの転換は誤解を生む可能性がある。

事務局：表現について再度検討する。

(2) 今後の予定について

全委員 : 意見なし。

委員長 : 本日は活発なご意見をありがとうございました。本日予定した議事はすべて終了とする。事務局に進行を返すこととする。

事務局 : 委員長どうもありがとうございました。それでは以上をもちまして、第5回富山市都市マスタープラン検討委員会を閉会とさせていただきます。委員の皆様、本日はどうもありがとうございました。

以上